班 通 信

No. 14

ハマナス

令和6年6月13日
さいたま市
岩槻班退職校長会
事務局：090-5826-3329（岡野）

今年度の岩槻児童センター連携事業始まる

「実物を見てホタルの一生を探ろう」

今年度初めての事業は中山会員が担当して、6月29日（土）プラネタリウムドームで、ホタルの観察とお話の会を行います。ホタルの卵から成体までの各ステージの実物を展示し、中でも暗闇にテントを設置し、中に成虫を放して観察する予定です。ホタルの一生について、子どもも大人も興味を持てると思います。今年度も長期休業期間を中心に連携事業を進めていきます。

今後の事業計画の概要決まる

今年中に実施する事業の日程等が決まりました。予定表に記入いただき、多くの会員の参加をお待ちしています。

1　第１回企画研修会

講演会「課題を抱える今どきの子ども達」
～さわやか相談員の目を通して～

・日時　　８月１７日（土）９：３０～
・会場　　コミュニティーセンターいわつき
・講師　　岩槻中さわやか相談員　毛利　直美氏

学校現場を離れて久しい会員も多く、学校支援のボランティア活動が始まろうとしている中、学校や子ども達の現状を把握することはとても重要と思われます。

そこで今回は、多様な課題を抱える子どの達の様子や対応のポイントなどを、日々奮闘している現職からお話を伺うことにしました。

2　日帰り研修旅行

・日時　　10月15日（火）
・行先　　群馬県富岡方面

この地には、富岡製糸場、世界遺産センター、県立自然史博物館、美術博物館、宇宙関連事業所、こんにゃくパーク、旧住宅など多くの見学地があります。今後担当が下見を行い具体的な見学地を決定します。

3　第２回企画研修会

干支（巳）の江戸木目込み人形作り

・日時　　12月1、8日（日）
・会場　　市民会館いわつき（予定）

「学校・地域の活動を支援するボランティア一覧」を区内関係機関に配付

今年度の対外支援事業が、岩槻児童センターとの連携事業を皮切りに開始されました。

また、昨年度会員に皆様にご協力いただいた、子ども達の健全な育成のために学校や地域に提供できる事項をまとめた「学校・地域の活動を支援するボランティア一覧」を区内各学校及び公民館等関係機関に配付し、活用を依頼いたしました。合わせて情報を送受するメールアドレスなどの体制も整備し、今後の反応を期待しているところです。

学校においては、課題を抱える子ども達が増加しており、それに対応する人材不足が危惧されています。また地域における活動もマンネリ化や衰退傾向にあり、新たな活動と人材の確保が必要で、本会の事業の必要性はますます高まってくると思います。

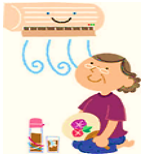
こうしたことから、本会は更に事業の周知に努める一方、会員が提供する学習支援をはじめとする多様な活動を蓄積し、一覧表をより一層充実させる必要があります。これには皆様のより一層のご理解とご協力が是非必要です。

どうぞよろしくお願いいたします。

「熱中症」に注意を

昨年５月から９月に熱中症で救急搬送された人は全国で91,467人にのぼり、その内65歳以上が55%を占めたそうです。また毎年1,500人もの人が死亡し、その80%は65歳以上とのことです。

高齢者は暑さを感じにくく、室内でも熱中症にかかりやすく重症化しやすいといわれます。そこで心掛けるべき対策ですが、①気温や湿度を測定し、自分の周囲環境の危険度を把握する　②エアコンや扇風機の他すだれやカーテンも活用して室内を涼しく風通し良くする　③一日1.2ﾘｯﾄﾙ、１時間ごとにコップ１杯の水を飲む習慣をつける　④入浴、睡眠時も水分を補給する　⑤外出では冷水を持ち歩き、服装だけでなく水分補給と休憩を心掛ける。



大切な自分事として心掛け、夏を乗り切りましょう。

季節だより

カタバミ

上：カタバミ
下：ムラサキカタバミ

道端や芝生などでよく見かけるカタバミ科の多年草。根はゴボウのような直根で地中深く伸び、茎は地面を広がる手ごわい雑草です。葉は３つの心臓形の小葉が集まっていて「片喰紋」として家紋にもなっています。「片喰」の名は、夜間葉が閉じると片側が虫に食われ欠けたようになるためといわれます。葉が緑のもの、赤みを帯びたもの、中間のものがありますが、同種の個体差によるものです。葉は朝方開き夜に閉じます。これは葉の付け根にある細胞内の水分量を調整して起こり、夜間の放射冷却を防ぎ光合成効率を上げる働きと考えられます。また、葉の表面は極小の隆起が密生していて、蓮や里芋の葉と同じく水をはじきます。5～10月にかけて直径８㎜程の黄色の花をつけ、光が当たると開花し．光が陰ると閉じます。これは花粉を運ぶハチ類の生活リズムに合わせたものになっています。実はロケットに似た細長い形で上向きにつきます。中に詰め込まれた多数の種子は、成熟すと内部の圧力が高まって、実が振動を感知したとたんに、種子の周りの袋が瞬間的に破れてパチパチと音を立てて種子が斜め上方に飛び出します。種子の表面は粘液に覆われており、振動を与えた動物の足や人の靴に付着して運ばれます。現在見られるカタバミによく似た種として、南米産で大型のムラサキカタバミ（花の中央が緑）とイモカタバミ（花の中央が赤色）があり、さらに近年北米原産で茎が直立するオッタチカタバミが都市部で急増しています。